

海原

題字 河原孝好先生

発行

平成 19 年 12 月 22 日

第 29 号

海 城 学 園
海 原 会

〔海原会事務局〕

〒 169-0072

東京都新宿区大久保

3-6-1 海城学園

TEL 03-3209-5880

FAX 03-3209-6990

E-mail : unabara@kaijo.ed.jp

海原会 URL

http://www.unabarakai.jp/

海城学園 URL

http://www.kaijo.ed.jp/

今号の紙面

「好奇心」を呼び覚ます理科教育／変わる正門、広がる前庭
海城祭／海原会総会出席者／20年度募集要項
ご近所の底力／HP告知／訃報／永年会費納入者
会費納入のお願い／トビックス／委員募集
同期会・クラス会等通信
活躍します「万波見大志さん」「内田直枝さん」
那須高原だより／クラブ・委員会活動
お知らせ／編集後記

1 2 3 4 5 6 7 8

「好奇心」を呼び覚ます 理科教育

理科科主任

鈴木元明



「必要は発明の母である」という通り、いつの時代にも「必要」は新しい技術を生み出す原動力である。また、科学者の「好奇心」によって自然界の不思議が解き明かされ、次々と新たな発見が続いて科学が発展してきた。科学と技術は車の両輪のように助け合って、現在の私たちの社会や暮らしを支えられている。私たちの生活に科学技術は必要不可欠であり、子供たちの教育にとって理科は必要不可欠の大きな位置を占めている。ところが、近年子供たちの学力が低下しているとか、「理科離れ」がすすんでいるとかいう話をよく

耳にする。ちよつと心配である。子供たちの生活している環境をみてみると、身近なところに自然がなくなっている。虫を捕まえたり、川や山に出かけたりして自然とふれ合う機会も少なくなっている。

また、家庭にはテレビなどの複雑な機械はあるが、昔ながらのシンプルな機械や器具がなくなっているようだ。いろいろな道具しくみが分からないまま使っている。それが普通で当たり前である。要するに、周りに「不思議な事」がたくさんあってもそれを考えない、感じなくなっている状況がある。こういう事は理科的にはあまり良いとは言えない。例えば、理科館の3階の水道の水圧は低い、1階の水道の水圧は高い。これは当たり前と思う。それでは、高層ビルなどの水道の水圧はどうなのだろうか。ささやかな疑問であるが、たぶんとても複雑な水道の供給システムがあるにちがいない。すぐに調べられることかもしれないが、興味・関心を持たなければそのままである。大人にとつては、それはそれで良いのだろう。しかし、子供は好奇心が旺盛で、不思議を発見するとすぐに聞いてくる。子供の質問を何回か無視したら次の質問はしなくなるかもしれない。子供にとつて親や教師も

子供の成長を助ける大事な環境のひとつである。親や教師が虫嫌ひ「になったら、子供はその影響を受けて「虫嫌ひ」になってしまうかもしれない。

中学一年生の元氣いっぱい様子を見る限り、「意欲」や「好奇心」は十分にありそう、また「理科嫌ひ」にもなっていない（ようにみえる）。ぜひ、このまま「理科好きの高校生」に育ってほしいと願うものである。以下、中学校の理科の授業について少し紹介する。

物理分野では、光、音、電気など現象をその場で見せる演示実験を多く取り入れている。生徒実験としては、レンズの像、直流回路、物体の落下など、得られる数値から計算・グラフを用いて自然現象を見つめるとともに、誤差の理由などより深い考察をさせている。化学分野は、特に実験の授業が多い。化学実験を実際に行うと、色の変化やにおいなどの実感が持てるようになる。水素や酸素や硫化水素などの気体、いろいろな金属、水溶液の性質、電気分解、中和反応など、様々な物質の性質を調べる実験を行っている。

生物分野では、いろいろな植物の花や葉の維管束や細胞の観察、呼吸や光合成の実験、細胞分裂の観察、ウニの受精と発生、ウニの観察、ブタの目や鳥の脳の解剖、毛細血管の観察、水棲生物や土壌生物の観察などを行う。また、年に一、二回、希望者を募って川などに野外観察に出かけている。

地学分野では、扱う現象の時間スケールが非常に幅広いこと、教科書に書いてあることでも実感として理解しづらいことが比較的多くなる。そこで、地学では、毎年、野外実習を実施しており、今年度は、中学生の希望者を対象に、「多摩川の地層と化石」と題して、およそ100万年前の飯室層から産出する貝化石の採集と多摩川の氾濫やその堆積物などを現地で見学した。参加者は61名で、教室ではできない経験となったようだ。さらに、放課後を利用して事後の化石の分類や整理も行った。

また、通常の授業でも、今年度は、学校付近での「台地・低地の測量」・学内での「気象観測」なども行っている。教室授業では、教員が夏休みに自ら撮影してきた三宅島の写真や報告を火山学習の導入で行ったり、実物や簡単なモデル実験装置を準備して演示で見せたりという工夫を行っている。

変わる正門、広がる前庭 新しい学園の顔が出来ます

学園では創立百周年の1990年頃より一連の建築工事を計画的に進めてきました。増改築工事により、教室数を増大することが出来ました。

芝生があると、養生、メンテナンスの必要性が生じますが、緑化がもたらす環境上の効果があります。

その結果、老朽化した3号館の一部を解体し、勉強する上で快適な生活空間を創りだすことにしています。それは前庭に作り出される天然芝に表現される様です。

近隣の居住空間との関係を考えて残した3号館の9教室は改装して、在校生、生徒の作品の展示場や多目的教室として、前庭でやっている体育授業を行う空間として検討しています。

今回の正門を始めとした前庭の改修工事は、昨年3月に竣工した2号館の増改築がもたらした、教室数の増大という効果が大きく影響しています。来年度3月末の工事完成時には2号館を中心としたバランスの取れた建物配置が完成していることと

（取材・石原長夫）



耳にする。ちよつと心配である。子供たちの生活している環境をみてみると、身近なところに自然がなくなっている。虫を捕まえたり、川や山に出かけたりして自然とふれ合う機会も少なくなっている。



生物分野では、いろいろな植物の花や葉の維管束や細胞の観察、呼吸や光合成の実験、細胞分裂の観察、ウニの受精と発生、ウニの観察、ブタの目や鳥の脳の解剖、毛細血管の観察、水棲生物や土壌生物の観察などを行う。また、年に一、二回、希望者を募って川などに野外観察に出かけている。

地学分野では、扱う現象の時間スケールが非常に幅広いこと、教科書に書いてあることでも実感として理解しづらいことが比較的多くなる。そこで、地学では、毎年、野外実習を実施しており、今年度は、中学生の希望者を対象に、「多摩川の地層と化石」と題して、およそ100万年前の飯室層から産出する貝化石の採集と多摩川の氾濫やその堆積物などを現地で見学した。参加者は61名で、教室ではできない経験となったようだ。さらに、放課後を利用して事後の化石の分類や整理も行った。



写真協力／東洋建設株式会社

KAIJO・FESTIVAL 2007

テーマ 「蒼海」

第 116 回 海 城 祭

漢なら背中で語れ



はり蒼海と同じように、言葉という道具では言い表せない。それを経験してきた背中のみが語る事ができる。今回の海域祭を決して言葉で言い表せないようなものにしたい。そんな思いを題名にかけてみた。と書かれていた。



今年の海城祭は、9月15日（土）、16日（日）の2日間開催された。

テーマ「蒼海」は、当日配布されたパンフレットによれば、広く、深く、言葉で言い表せないくらい蒼い大海原、それを漢字で書くと「蒼海」と書く。漢（おとこ）が歩んできた人生は、や



私が見学に行ったのが9月15日(土)で、新大久保駅に午前9時20分頃降り立って驚いた。親子連れがそれこそ間断なくぞろぞろ海城方向に向かって歩いている。こんなに早くからと疑問を持ちながら一組の親子に聞いてみたら、「来年息子が中学受験なので、話ではいろいろ聞いてはいるが、じつくり、ゆっくり見てみたいのと生徒の活動振りの一端を実際にこの眼で見てみたい」ということだった。た

●—平成 19 年度海原会総会出席者—●

〈参加者数141名〉（数字は卒業年度・敬称略）

昭27											昭26											昭2523											昭2018											昭171614											昭134																																																																				
森山	水立	須藤	鈴木	小竹	小川	太田	森戸	宮田	宮川	櫻木	尾上	石川	池田	足立	大貫	柳川	松原	浜田	植木	秋本	福田	眞野	根岸	難波	高橋	衣川	伊藤	伴原	荏原	橋爪	稲垣	安達	清水																																																																																										
富夫	安悠	博巳	哲雄	良二	康幸	晴望	康稔	四郎	昌典	武郎	達也	健一		金吾	文雄	宏之	謙一	昭夫	信行	賢三	遼文	貞士	忠雄	但馬	之助	利也	輝雄	金作	武彦	秀雄																																																																																													
.....																																																																																																																											
昭34											昭33																						昭31					昭29					昭28																																																																																
大谷	市川	森村	溝渕	前田	永竹	長田	利根	古賀	小金	小泉	黒川	伊藤	石原	池内	林野	畑上	村上	宗田	永島	田中	小島	功刀	小川	岡本	大澤	梅田	上野	石井	山崎	松本	水田	片山	山本																																																																																										
徳義	武昭	良修	脩雄	昌則	久雄	耕輔	喜博	建雄	叔彦	彰規	長宏	章榮	三郎	勲	光雄	健隆	忠雄	晋一	英夫	英明	周三	康夫	長治	武司	勝郎	忠博	滿美																																																																																																
.....																																																																																																																											
昭41				昭40				昭39				昭37				昭36											昭35																																																																																																
川名	奥山	山下	川瀬	岡于	岡安	岡山	谷中	本田	松田	林島	塚中	田中	滝本	杉本	重武	佐藤	齊藤	小谷	鯉沼	金子	上原	伊藤	浅香	荒川	赤石	藤枝	平井	橋口	小池	川村	佐藤	小笠																																																																																											
幸夫	雅人	惠一	幸弘	善紀	邦彦	利一	雅康	祐輔	善武	昭策	忠家	永修	喬	千佳	茂任	洋介	忠信	眞人	博嗣	宜男	隆彦	邦生	鎮敬	武浩	武志	隆三	洋文	欣也	喬																																																																																														
.....																																																																																																																											
平19				平18				平17				平15				平5				平2				昭61				昭58				昭54				昭50				昭49				昭48				昭47				昭42																																																																							
益子				緒方				三上				山下				多和田				竹田				阮村				飯村				横堀				中尾				小倉				古屋				齋藤				湯田				内田				池田				高橋				植松				菊池				荒川				峯崎				嶋山				木村				賛田				里村				森村				見村				中村				新海				森山				菅原			
博貴				友博				貴也				侑祐				智哉				久住				慶太				心彦				清英				弘信				英彦				順司				圭				大樹				信彦				孝行				太郎				頼仁				賢亮				正恒				貴吉				好信				直明				敏郎				輝久				栄一				昭洋				進															



大変興味あるものとして人
貴重なものとして人
早々に無くなつてい
では、昭和32年から立
を販売している「柳
屋」さんが、携帯ス
トラップ、ボールペ
ンなどの海城グッズ
を販売していて、一
時行列のできる賑わ
いであつた。

私は、56年前の昭
和26年卒で、当時学
園祭が行われていた
のかどうか、戦後の
厳しい時代で殆ど記
憶に残っていません。
ここ十数年海原会と
の繋がりで、毎年学
園祭を見学に母校に

魂」の一端を時に垣間見ることでできたりする。そして自分自身、青春の真つ只中へ帰るという大変ありがたいご利益を受けたりする。ここで海原会員皆様へお願いがあります。海城学園は日々進化しています。変化もしています。若き日々海城で学んだ、遊んだ、そして先生方との交流もいろいろあった、その人その人の思い出が蘇ると思います。小さな繋がりが大事です。その機会は少なくとも年に2度あります。6月第一週土曜日に開催される「海原会総会（終了後懇親会開催）」と10月の「学園祭」です。是非母校へ顔を出して下さい。足を運んでみて下さい。

（文・写真 小川晴望）

平成二十年度
募集要項

- | | | | | |
|---|---|--|--|--|
| <p>*海城中学校
募集人員 第一回 140名
第二回 140名
出願期間 1月21日～30日
入学検査 2月1日
第二回 2月3日
検査科目 国語・算数・社会・理科 (面接なし)
合格発表 第一回 2月2日
第二回 2月4日</p> | <p>*海城高等学校
募集人員 125名
出願期間 1月25日～2月8日
入学検査 2月10日
検査科目 国語・英語・数学
合格発表 2月11日 (面接なし)</p> | <p>*那須高原海城中学・高等学校
募集人員 中学 80名
高校 80名
◆(一般入試)
出願期間(郵送)
H19・12・1～H20・1・10必着
窓口の願書提出は試験前日まで
入学検査 1月13日 海城学園(新宿)
及び埼玉(大宮)
千葉会場(津田沼)
合格発表 1月16日郵送(速達)
◆(特待生入試)
出願期間(郵送)
H19・12・1～H20・1・17必着
窓口の願書提出は試験前日まで
入学検査 1月20日 早稲田予備校(高田馬場)
合格発表 1月23日郵送(速達)
◆(一般人入試)
出願期間(郵送)
H19・12・1～H20・2・1必着
窓口の願書提出は試験前日まで
入学検査 2月4日 海城学園(新宿)
白河(ホテルサンルート)
合格発表 2月6日郵送(速達)</p> | <p>検査科目
中学(一般入試特待生共通)
4科目型 国・算・社・理
高校(一般入試特待生共通)
国語・数学・英語
(面接あり)</p> | <p>海城・那須海城とも帰国生入試有
那須海城は転編入生入試有(随時</p> |
|---|---|--|--|--|

通信

同期会・クラス会等

◆幹事のみなさまへ
同期会・クラス会を開かれた時は
海原会事務局まで、写真・原稿を
お寄せください。

昭和26年卒 海原二六会

▼お互い元気の探り合い

◎平成19年10月28日(日)
◎於・高円寺「アルシエ」
◎参加者・11名
「二六会」は、偶数月の第四日曜日の午後2時から高円寺パーテイの名で、太田稔君の店「アルシエ」で開催している。今回の参加者は11名市川孝、市川成太田、小川晴、小竹、小館、高田、土井、星川、水尾、山本)だった。話題の多くはやはりお互いの健康状態についての話で、殆どの者が複数の病と苦闘している状況報告があり、それについて参考? となる意見が種々開陳された。「病氣」は、好むと好まざるを問わず、向うからやってくるものである。やはり早期発見、早期治療が最も大事なことであろうということに落ち着い

昭和25年卒 海原二五会

▼「戦友」たちの宴

◎平成19年10月27日(土)
◎於・母校カフェテリア
◎参加者・27名
台風20号の影響で強い風雨が荒れ狂う中、同期の者27名が集。久しく母校を訪れたことがない仲間も多いのではとの幹事たちの配慮で、今回は母校見学も兼ね、カフェテリアでの開催と相成った。当日は横なぐりの雨の中、午後4時参集。学園幹事の石川達也君の案内で8階建ての新校舎(2号館)をはじめ、体育館やメモリアルホールなどを見学。母校の目覚ましい大学進学実績はすでに周知のとおりだが、校舎などの増改築も目覚ましく、われわれ終戦前後の在学が体育の時間や放課後などにコンクリート塊やレンガを片付け、モッコを担いで地ならしをした運動場を感慨深く見下ろしていた。

た。

昭和20年(1945年)4月に中学入学。空爆さなかの登下校。その年の8月終戦。混乱を極めた諸状況の中での学生生活。そんな時代を何とか生き抜いてきたわれわれ。戦後62年経過したこんにち、年齢も74歳、75歳。老後の生き方としてこの同士の集まりは、心身ともに苦労を分かち合った本当の意味での友達であり、仲間である。その仲間と集える喜びは、何ものにも変えがたいものだと思え、感謝の気持ちを持った一日であった。

当日は、競馬では秋の「天皇賞」。ゴルフでは「日本シニアオープンゴルフ」。東京六大学野球では「早慶戦」が行われ、テレビ観戦も一時好みのチャネル争いが起ったりして、和やかな中にも子供じみた争いもあった。二六会の皆さん、大変楽しい集いです。場所は高円寺の駅から近く、目標は「西友」で、そ

午後5時懇談会に入る。はじめに足立和君から恩師の吉本至先生(数学)をお訪ねした時の様子を報告。先生は今年94才、耳が遠くなられたが、お体は元気な様子だったとのこと。今回は物理の永井貫先生もお招きしていたが、お二人とも体調を気づかわれてご出席いただけなかった。



の斜め前が「アルシエ」です。皆が君を待っています。(小川晴望 記)

▼五七年振りの恩師と

吉本至先生にお目に掛かったのは、実に57年振りである。同窓会にご出席を願ったが健康上の理由で無理であるとのこと連絡は頂いていたが、一度お目に掛かってお願いしようと、宮川昌典、宮田四郎、尾上武郎の諸兄と4人連れで10月23日に中野のお宅へお邪魔した次第である。

(梅澤喬二 記)

快くお座敷に招き入れて頂き、やがてお出でになった先生を見ての第一印象は「本当に吉本先生?」私だけでない。4人共そう思った。無理もない。年齢94才。往事・俊敏・活発・色浅黒く、大声で蹴球のコーチをされていた。

昭和24年中学入学 テッチャン会

▼来年の再会を約して

◎平成19年10月19日(月)
◎於・小田急デパート
◎出席者・10名
昭和24年中学に入ってから、3年間E組で机を並べた者達のこの会が、10月19日ちょうど1年ぶ



りに小田急デパート14階で開かれた。1名が電車の事故で欠席したほかは、西宮市からわざわざ出席した門田を含め10名。欠席者の多くからも近況報告があり、すでに逝った仲間たちのことも含めて、60年近くの昔に語り話に花が咲いた。



(峯村純一郎 記)



戦時中は飛行機の技師だった為に召集免除。戦後は故郷の千葉で海水から塩を造り大いに儲けたが、自分は数学者、数学で身を立てるべきだと悟り、教員を志された。数校あったお誘いの中から、海城中学を選ばれたのは、都立の入学発表があるまで合格者の手続きを待っている校風を好と感じられたからだと言われた。ただし、月給は930円也。新宿区依託の学級の対処。月謝3倍の折の討議。グラント買入れについて古賀理事長の管理等々、約40分に亘り芋畑の講義は続く。事実都立合格者の中から海城を選んで入学した生徒も多く、レベルアップに繋がった英断であったと、先生の評価も高かったが、グラント測量をご自分がやった時利用したの方程式を説明されたが、普通理解は出来なかった。

新校舎の写真をご覧になって「立派になったなあ。進学率も高く名門校になったことは嬉しいことだ。しかし、俺はあの

古い、小さい校舎とあの頃の海城が好きだ。無性に懐かしいよ」先生の胸中には60年前のあの海城が先生の青春時代(31才)の大切な一駒として残っておられたのだ。

ご記憶明晰と書きましたが我々4名全員、記憶外でした。「君達、町で俺に会ったら判るか? 判らんだろう。俺が君たちを判らんの当然だろう」と阿々大笑。

隣はご長男一家。奥様もお元気で毎日お孫さんが先生に会いにくるとか……

帰る時奥様は我々のポケットに大きなどら焼きを一つづつ入れて頂きました。白髪の我々も先生から見れば未だ子供なのだろうと、少ししみみりしながら駅へ向かった4人でありまし

(足立和 記)

昭和34年卒 クラス会

▼歴史の重みを感じる

◎平成19年7月10日（火）

◎於・新宿 中村屋

◎出席者・12名

今回はこじんまりとした会になりました。それだけ現役の人

も多いということです。

初参加の人は、小笠原康夫く
ん、石井武雄くんの両名でした。
二人の報告を聞いてみると我々
の年代は将に戦後の日本を背
負ってきたのだと痛感します。

実際、各人の報告は今日を生
き抜いている様を如実に語って
います。

海城を卒業して49年になりま
すが、未だに現役の方が大勢い
ます。報告をする、報告を聞く
というを通して、各人は自
分を確かめ、歴史を感じてい
るのです。

最後に関下先生のお言葉を頂
戴し、再会を約して散会しまし
た。

（小出湧三 記）



昭和34年卒 海原三四会ゴルフ会

▼優勝 徳光和夫君

◎平成19年10月12日（金）

◎於・千葉

姉ヶ崎カントリー倶楽部

◎出席者・11名

今年3月に続いて第2回ゴル
フ会は初参加の片柳柳太（A組）
郡司政夫（A組）猪俣章（B組）
稲垣光繁（C組）山崎一善（C組）
の5名が何十年振りに徳さんと
の再会を喜びながら快晴のゴル
フを楽しみました。
ここ、姉ヶ崎C・Cの東コー



昭和27年卒 海原二七会

▼雨ニモマケズ 風ニモマケズ

◎平成19年10月26日（金）

◎於・WEST GARD（日本園）

◎出席者・24名

我々、昭和27年卒は74歳にな
る。生まれて74年経った。中に
は75年、76年経ったものも居る。
これは戦争中疎開などで授業
どころでなく、空襲警報ばかり
だった。戦後改めて、もとの学
年に入ったからである。まあ、



ドサクサ紛れに入ったようなも
のである。
ふり返ってみると、
「思えば遠くへ来たもんだ」
なんて歌があったっけ？ 開

き直って言えば、
「思えばジジイになったもんだ」
そんな実感がしてならない。

それでいて同期会では青春時
代の若者が集まってきた。
当日は台風の前触れか、夕方
から大雨になり、「雨ニモマケズ
風ニモマケズ 丈夫ナカラダヲモ
チ」ながら会場に飛び込んだ。
びしょ濡れ。

宴は始まった。
例の「欠席者近
況」なる冊子が配
られた。それによ
ると欠席者の60数
人の内3分の1位
の人は体調不良
あとは元気のよう
だ。

宴会のほうは号
令調の司会者、森
山君が絶好調。乾
杯の後、それぞれ
の話題は海城時代
の思い出からお互
いの近況まで盛り
上がる。

いよいよメイト
ルが上がる。我々
慢がでさず席を離
れて巡回訪問？
入り乱れて、も
うシツチャカメッ
チャカ大騒ぎ。そ
うなると片方でカ
ラオケでうなっ
ている者と不協和音
だから同窓会つ
て面白い。海城時
代の僅か数年間の
付き合いが、鎖の
ように繋がってい
る。これがホント
の「鎖縁」。

予定時刻を過ぎ
た。来年の再会を
約して散会した。
（山本満男 記）

海中酔栄会

▼積もる話に花が咲く

◎平成19年10月6日（土）

◎於・四谷 こくている

◎出席者・9名

人生の半分くらいを、やっ
との事で折り返せたオジサンたち
が、懐かしい思い出と、一抹の
人恋しさに惹かれ、集まって
ました。あの頃はまだ下の毛も
生え揃わない中1で知り合い、
今や50を越え上の毛が惜しまれ
つつも損失を覚えるこの状況に
半世紀という時の重さを感じま
す。ともあれ、久しぶりの顔ぶ
れが集まると、あつという間に
昔話の花が咲き、各教科の先生
方のイメージをものまね調で再
現したり、当時のエピソードな
ど、どれもが抱腹絶倒モノでし
た。

会の名称「海中酔栄会」とは
文字通り海城中学出身者が、酔っ
つて栄えるという誠に都合のよい
ものになっております。このタ
イトルの考案者であり、幹事を
引き受けてくれた面川氏（携帯



海城新聞OB会

▼若年の方の出席を

◎平成19年10月26日（金）

◎於・小田急ホテルセンチュリー
サザンタワー

◎出席者・8名

昨年と同じ時期に同じ場所の
開催となりました。
今回は何時も大勢出席される
年代の方達の同期会と重なり出
席者は少なかつたのですが、卒
業年度が昭和43年の方が出られ
て、昨年より若返りました。

戦後、うぶ声をあげた新聞部
は、その時々先輩たちの意思



（石原長夫 記）

と情熱で築いた業績を引継いで
来ました。その後幾度かの変遷
を経て、現在は残念ながら中断
してしまっているようです。

こうした高校時代の新聞部で
の活動が、その後の実社会でも
大変に役立ったという話が、幾
つかの事例をあげた話しで出ま
したが、世代は代わっても、新
聞発行というクラブ活動で得る
ものは、同じ様なものがあると
いうことを感じました。

今後はこうしたOB会が、高
齢化に伴う老人会だけに終始し
ないように、若年の方の出席も
増やしたいという話しでもまし
た。

「海原」次号は、2008年
5月発行の予定となります。
これからもよろしく願い
いたします。

昭和33年卒
海原三三会

▼卒後五十年に向けて

◎平成19年11月17日(土)

◎於・新宿西口「わらびや」

◎出席者・27名

漸く初冬を感じさせる新宿。今年も恒例の海原三三会を開催した。ここ数年来20名程度の出席者が、初参加の伊藤英夫君、佐藤高紀君の2名があり、一層賑やかになり盛り上りました。一方一昨年まで元氣に出席していた飯室辰夫君が、5月に他界されたと奥様よりご返事頂き、ご冥福をお祈りしました。季節に合わせ鍋を囲み、健康、趣味、仕事や定年後の過ごし方などの情報交換。長い様で短い一

昭和16年中学入学卒
同期会

▼八十才に乾杯!

◎平成19年10月27日(土)

◎於・中野サンプラザホテル

◎出席者・25名



年の積もる話に花が咲いているようでした。僅か、二、三時間では話しきれず、眩いネオン街へ、それぞれのグループに別れ流れたようです。来年は卒業50周年となるので、盛大にお祝いしたく思っています。大勢の方々のご出席をお願いします。乞う、ご期待!! (前田昌則 記)

かえり見れば平成6年に新宿三井ビルにて同期会を開催してから都内のホテルに毎年集合して旧交をあたため今年で14回目を迎えました。同期会の名簿を見ると鬼籍にはいられた方が多くなり、いちまつのさびしさを感ずりますが、和気あいあい談笑の2時間半を過ごしました。出席者の挨拶で一番関心の高い話は80才を目前に控えて、先ず日々の健康、回りの人に迷惑をかけない日常生活を送れる様に心がける、年に少なくとも一回は精密な診断を受ける、先ずは手おくれにならない早めの受診、病気に関する体験談などが多い話題でした。80才になる本年も元氣に再会しようと乾杯して散会しました。(石原清 記)

昭和18年卒
海原一八会

▼人は八十歳を超えて!

◎平成19年10月9日(日)

◎於・ホテルグランドヒル市ヶ谷

◎出席者・9名

昔は、まさに長寿と言われる歳を越えて、2年が過ぎた。あと2年を加えると第7回目の生まれ歳を迎えることとなる。墨田区明治青年大学での講義「おもしろ漢字の歴史(漢字の日本渡来と音訓の流れ)」でのこと。「おい先」の「おい」はどんな漢字を当てますか、との質問。私は即座に「老」と答えた。講師はニコニコ笑いながら「X」と言われた。自信満々の筆者は、?と思った。講師は「生」だと言う。説明を聞いてみると、我々高齢者は、昔流に「老」と思うが、現在は、生きて行く先をみつめるということで、「生い先」なのだという。言い得て妙、高齢者が30%から40%になるという。この世代「生」を大切に

するためには、生きて行く先を見つめて、元氣に生きることだという。さて、その高齢者集団である同窓会が10月9日恒例の場所、ホテルグランドヒル市ヶ谷「真珠の間」で開催することができた。参加者は僅か9名、努力したつもりだったが徒労になった。計報も増えた。篠原猛君が平成12年2月22日に他界にも関わらず7年も生存として取り扱い、奥様に大変失礼なことをしてしまった。文中謝罪いたしまして。相田龍平君が平成19年1月21日ご逝去。彼は生前、お前が幹事をやっている間は、絶対連続出席するぞと、いつも幹事連中を元氣付けて呉れたが今は亡い。若月一甫君も平成19年7月20日ご逝去との報。皆が元氣だと思っていたのに、80歳代に入ってから歳々、幽明境を異にすることが多くなって行く。これも人生なのだろう。



今回遠方からの出席者は、金沢から、横山玄海君が、鎌倉からは高田弘之君が、日比雅弘君は、開催日前日電話で、明日はどれ位集まるのかという。君が出てくれれば丁度10人になるという。と、よし数合わせに出席するという。その後、世古明夫君から手紙で欠席するということ。所謂「ドタキャン」というやつである。お陰で出席者は二桁を割ることとなった。

それでも例年のとおり、佐藤晋君の懐かしハーモニカの音色に励まされ、校歌を合唱して会を閉じました。1年の無事を祈念しつつ。(福田賢三 記)

昭和19年卒
海原一九会

▼全員が「傘寿」を迎える

◎平成19年10月25日(木)

◎於・銀座 三笠会館

◎出席者・15名

昨年のクラス会案内状に当り、ここ数年参加者が加齢と共に減る一方となり、特に今回は全員が「傘寿」を迎えるという節目の年とあって幹事一同此辺でクラス会の開催も幕を降ろそうではと提案した所、何人かの方々が「まだまだいけるじゃないか」「続けるべし」等々のご意見に従い、それならばと継続する事となった次第で今回も30名



の方々に出状しましたが、出席15名、欠席10名のご返事を頂きました中で、本年6月に川上礼君が死去された旨遺族よりお知らせ頂きました。心よりご冥福をお祈りする次第です。又、一方で10数年以上の長きに亘りご無沙汰の川合成史君が久しぶりの出席、又、故柏田昭君の令妹北山礼子さんのご参加を得て一段と盛り上がったことでした。尚本状を書いている最中に近所の郵便局長が宛々年賀はがきを持って来て今年もいよいよ住所録をチェックする時季が来たか等思いつつ我が名が知己の人のそれから消去されず生き残れる様祈るのみ、どうか同級の諸兄も呉々も御身ご大切に。(小田定朗 記)

活躍してます

作家

方波見大志

(かたばみだいし) さん
〔平成 11 年卒〕

本紙前号でもお知らせしたが、本校平成 11 年の卒業生方波見大志さんが、昨年、第 1 回ポプラ社大賞を受賞された。今回は、ご本人をお招きして、受賞に至るまでの経緯・今後の作家活動についてお話をうかがった。

(取材・写真 鈴木武道)

ポプラ社は老舗の児童書を中心とした出版社だが、近年、一般書の進出もめざましく、「大人の読者に向けた本のさらなる展開」としてポプラ社大賞を設定した。その栄えある第 1 回作品に選ばれたのが、方波見さんの作品『削除ボーイズ 0326』である。

こうしたそうだ。特に漫画に対する思い入れは強く、『月刊アフタヌーン』連載された『BLAME!』(グラム)を好きな作品として挙げられた。映画にも興味があり、お気に入りには『キューブ』『SAW』(ソー)などの究極状況下における人間を描いた『ソリッド・シチュエーション・スリラー』だ。

「実は一般読者向けの賞であることを知らず、ポプラ社さんなので、少年を主人公にした方がよいかなという気持ちで書きました」と作品同様、ユニク

こうして、方波見さんが蓄積されてきた思いや経験は、小説によって語られることになる。受賞作からまる一年の年月をかけて、第二作『ラットレース』がポプラ社より刊行された。

「実は一般読者向けの賞であることを知らず、ポプラ社さんなので、少年を主人公にした方がよいかなという気持ちで書きました」と作品同様、ユニク

「笑いと涙を詰めこんだ、オフビートな青春幽霊コメディの快作」とのこと(『ダ・ヴィンチ』2007 年 12 月号)。

「実は一般読者向けの賞であることを知らず、ポプラ社さんなので、少年を主人公にした方がよいかなという気持ちで書きました」と作品同様、ユニク

「笑いと涙を詰めこんだ、オフビートな青春幽霊コメディの快作」とのこと(『ダ・ヴィンチ』2007 年 12 月号)。

「実は一般読者向けの賞であることを知らず、ポプラ社さんなので、少年を主人公にした方がよいかなという気持ちで書きました」と作品同様、ユニク

「笑いと涙を詰めこんだ、オフビートな青春幽霊コメディの快作」とのこと(『ダ・ヴィンチ』2007 年 12 月号)。

「実は一般読者向けの賞であることを知らず、ポプラ社さんなので、少年を主人公にした方がよいかなという気持ちで書きました」と作品同様、ユニク

「笑いと涙を詰めこんだ、オフビートな青春幽霊コメディの快作」とのこと(『ダ・ヴィンチ』2007 年 12 月号)。



最後に、明日の作家を志望しているかもしれない読者へメッセージをお願いしたところ「作家にはならない方がいい」とのご返事。さらに「向き、不向きがあるの」とつけ加えられた。作家「志望」で終わらないためには、結果としてそれなりの覚悟もいるというアドバイスである。方波見さんの今後の活躍に期待したい。



海城生を愛しつづけた 81 歳

海城学園は創立 116 年になる。現在の戸山の地に腰を据えてからも 80 年になる。この母校へ、40 年以上今も通いつづけている人がいる。先生でも理事さんでもない。授業のある日にはその姿がある。海城に通う日数では、この人が記録保持者かも知れない。どんな人か見当が付きませんか。

海原紙発行打ち合わせの用で、母校に向かっていた。自転車の女性が校門を入るのを見て、おやつと思った。何十年来、同じ姿を時々見かけてきた人で、海城に縁があるらしいことにはじめて気づいたのだ。校内で文房具等の売店柳屋を経営する内田直枝さんであることを知った。大正 15 年生まれ。

売店は、食堂の真下にある。小さな畳部屋の窓の内側に商品が並んでいる。左隣の部屋は、食堂が経営するパンの売店で、昼休みには、狭い通路が、生徒たちで混雑する。授業中は当然ながらほとんど客が来ないので静かだ。

売店は、内田さんと次女の大地美喜さんが守っている。タタミ敷きの室内に通されて話をうかがった。小さな棚に結婚式のカップルの写真があった。卒業生が持ってきたものだった。

「この仕事がいすきなの。生徒たちが卒業時に残して行った色紙を何枚も見せてくれた。大隈講堂をバックに早稲田の制帽姿の写真の裏には「どうい男でしよう」とサイン。何冊もの海城祭のパンフレットをだいに残している。97 回の校庭の混雑ぶりを描いたマンガの一隅に、眼鏡をかけた自転車の人物が、ちりりり、どいて」と急いでいるイラスト。100 回目のパンフの校内概観のページには、山手線の線路上を、電車で追われるように走っている同じ自転車姿がある。やっぱり今でも、自転車がおババ(生徒たちからの正式な呼び名らしい。ご自分でそう呼んでおられた)のトレードマークなんだなと分かった。母校で教鞭をとる

ことになった卒業生が「おババ、戻って来たよ」と挨拶に来るそうだった。

数年前の卒業式と百年祭パーティーに思いがけなく招待された。生徒たちがワッと寄ってきた。抱きついてきた。いちばんうれしい思い出だ。

「この仕事がいすきなの。生徒たちが可愛いって止められないわ」と眼を細めた。毎日が楽しくて仕方がない、という。

お父上の高柳信次郎さんは、大正 3 年下戸塚町で文具店を始めた。その後新大久保駅のそば今のところに移転。そこで内田直枝さんは生まれた。男二人女四人の六人きょうだい。海城の前にある戸山小学校を卒業した。海城の用務員だった遠藤さんの娘さんが一学年下にいた。海城中学生七ツボタンの制服姿は、近くの娘のあこがれの的だった。内田さんもひそかに胸をときめかせたそうだった。

家政女学校に在学中、太平洋戦争になった。学徒動員で疎に授業ができなかった。昭和 18 年、空襲で店を失い、辺りは一面焼野原、その時海城は先生、生徒のけんめいの努力もあって、どうやら類焼を防いだが、講堂だけは屋根を残して焼けた。大勢の被災者が、その屋根の下に避難してきたのを内田さんは覚えていた。柳屋さんの一家は、多摩の方へ疎開した。長兄の恵一さんは応召、レイテ戦で戦死された。「若いのにお兄さんかわそ

うだったわね」……。

焼跡に店を再建したものの、

「ここは柳屋の支店の積み、身体がつづくかぎりやる」そうだった。戦後から、社交ダンスを今も楽しんでいるそうだった。

(昭 28 卒片山忠美記)

「ここは柳屋の支店の積み、身体がつづくかぎりやる」そうだった。戦後から、社交ダンスを今も楽しんでいるそうだった。

(昭 28 卒片山忠美記)



あらかじめご了承ください

那須高原だより 19

那須高原海城中学校・高等学校 Pre 部長 塩田 顕二郎

キャリア教育講演会

本校では、Pre 部を中心に未来構想支援機構と連携をとりながら「キャリア教育プログラム」に力を入れています。このプログラムは将来の進路選択や大学選びに向けて、従来の進路指導とは異なる観点から生徒の職業観や勤労観を醸成していくこととするものです。そのひとつとして、海城OBの方をお招きして、中高時代の体験や今のお仕事についてお話しいただき、キャリア教育講演会を昨冬から開催しています。

今年度の修学旅行は、「平和学習」を主題とし、沖縄戦や、長崎の原爆、特攻隊に関わる戦跡を多く巡る行程でした。「長崎は、広島と似ていた。平和って普段あまり考えないけど、感じないくらい今の僕たちは有り難い世界で生きているのだな」と感想を漏らした生徒の声が印象



員高山智司さん（平成元年卒）、福島テレビアナウンサー・蘭草英己さん（平成元年卒）、JR東日本鉄道事業部片方聡さん（昭和55年卒）にお出でいただきました。今後も年3回、このような講演会を実施していく予定です。

第3回同窓会

本年は猛暑の中の開催にもかかわらず、小出湧三先生、古賀喜憲先生にお越しいただき、7人の卒業生が参加しての同窓会となりました。前回同様、新宿海城学園の食堂をお借りしての同窓会は昨年よりは少ない参加でしたが、近況報告など充実した時間を共有することができました。ありがとうございました。

那須海城の生徒に自身自身の体験やご職業について語っていただける方を募集していますので、ぜひk-shota@nasukaijo.ed.jpまでご連絡ください。

「平和」について考える 修学旅行

那須海城では高2の秋に修学旅行を実施しており、本年も11月4日から9日まで沖縄・長崎・

委員会・クラブ活動 だより

21

中学ソフトテニス部

都大会を目指して

昭和26年に再建された庭球部は、平成5年に軟式テニス部からソフトテニス部と名称を変え、平成6年の新人戦からは、



と考えていますので、楽しみにしててください。
(同窓会長 蒔田典真)

国際ルールが採用されました。昭和61年より平成19年まで、

4～5名の顧問で大会・外部のテニスコートでの練習などの引率を分担してきました。ソフトテニスの指導のできる体育科講師の先生が顧問に加わった期間は、熱心な指導・コーチの結果、新宿区の春季・秋季・夏季の個人戦・団体戦でも優勝・2位・3位などの好成績を上げ、都大会ではベスト16位・32位まで勝ち進んだこともあります。

海城学園創立110周年事業の一環として、2号館の6・7・8階の増築工事が始まり、続いて3号館の一部解体と、前庭の緑化工事（芝生など）に伴い、前庭をテニスコートとして使用できなくなりました。グラウンドの隅のオムニコートは2面に拡張されたので、現在は月・木・土の週3日練習しています。

平成19年度より中学硬式テニス部が発足し、ソフトテニス部の部員数は減っています。平成18年度の夏季大会は団体戦で準優勝したのですが、都大会に出場しましたが、残念ながら1回戦で敗退しました。平成18年度秋季大会（新人戦）以降は、新宿区の団体戦で3位までは入賞しますが、2位までが都大会に出場できるので、来年は団体戦の2位が当面の目標です。1月には私学大会もありますので、20名の2年生の部員は団体戦メンバーに選ばれるように頑張っています。また、火曜日にトレーニングも始めました。1年生は、まだテニスコートで練習する機会が少ないのですが、来年の1年生大会に向けて頑張っています。

高校テニス部

競技を通して、判断力・集中力・精神力などを養う

こんにちは、高校テニス部長の青山です。今回はこの場をお借りして、私たちの部活を紹介させていただきます。
現在、高校テニス部には80人程度の部員が在籍しています。

お知らせ

学園職員の大西喜和さん（昭和36年卒）が平成20年3月31日付けで定年退職されることになりました。ご苦労様でした。大西さんは本来業務の学園の仕事のほかに、

普段練習を行うのは、グラウンド奥のオムニコートになります。練習日は月・火・水・金・土の週五日ですが、部員数に対し、コートは二面と少ないため、それぞれが出席する曜日を分けて人数を調整しています。

一回の練習は二時間程度です。基本的に、練習の内容はある程度決まっております。ウォームアップのラリー、サーブなど基礎練習、試合形式の練習などを行います。顧問の先生は忙しいので、指導して頂けることは多くはありませんが、必要な練習を自分たちで考えて、実行しています。

もちろん、コートを入った練習だけでなく、体力作りとしてのトレーニングもあります。季節によって、近くの公園での走りこみや、筋トレなどを行います。特に入部してからしばらくの間は、トレーニングや球拾いが主な活動内容になります。

また、夏休みには軽井沢で合宿を実施しています。合宿は五泊六日の日程で、先生方及びOBの先輩方による指導や、紅白戦・トーナメントを行うなど、普段に比べて密度の高い練習となるため、毎年多くの部員が参加します。

ただ、残念ながら、大会では今のところあまり良い成績を残すことができていません。そのため今は、近く開催される大会に向け、多くの部員が熱心に練習に励んでいます。

以上で、紹介を終わりとさせていただきます。また、海城学園のホームページからは、私たち高校テニス部のページをご覧になれます。私たちの部活に興味を持った、という方は、どうぞおいで下さい。

「海原」の会員管理、総会開催準備、会計全般、それに会報の発送作業等、海原会の殆どの業務を処理していました。

さて、問題は今まで大西さんがやってきた業務を誰が引き継ぎ、どうしてやっていくかということ

です。勿論海原会が主体性をもって考慮すべき問題ですが、従来から海原会には学園幹事として何人かの先生が参加し、学園と海原会との繋ぎ役として、会報発行、ホームページ維持管理等で指導、助言を頂いています。この学園幹事の先生の中から、中村久憲先生（昭和48卒）に教師との両立が出来る範囲でやって頂くことになりました。

具体的には最も手間・暇のかかる左記事項について軽減を図ることです平成19年12月1日開催の合



中学ソフトテニス部



高校テニス部

同委員会、常任幹事会で承認されました。

- ①会報の発行は年1回にする
- ②発行月は③との関係で、4月下旬から5月初旬とする
- ③総会開催通知と返信用はがきは、会報送付時に同封の上送付する。

以上により、会報発行は年1回となりますが、内容のなお一層の充実をはかるとともに、現在の発行頁8頁を最大12頁にすることを考えています。

ただ、現在編集委員は5名です。昭和26年卒1名、昭和27年卒1名、昭和28年卒1名の70歳代トリオと昭和33年卒1名、それに会社員として活躍されている昭和62年卒1名の構成です。長い間この5人で頑張ってきました。編集委員の不

足は慢性化し、限界にきています。厳しい状況です。この現実を委員の皆さんはどう感じですか。私達は会報の編集・発行方針等について、次世代の人と意見交換しながら伝えていきたいのです。機会あるたびに編集委員への参加の呼びかけをしています。なかなか実現していません。いろいろな形で参加が可能です。ご意見・ご感想を事務局までお寄せ下さい。

皆さんからのご連絡お待ちしております。

（編集委員長 小川晴望）

編集後記

▼年2回発行の本紙「海原」が、諸般の事情により年1回になることが決まりました。関係者の一人として大変淋しく残念に思っています。今後は、学園との協調はもとより、会員皆様のご意見を踏まえながら紙面の充実を図っていく所存です。ご支援をよろしく願います。

（小川晴望）